

高知県立
文学館

高知県立文学館ニュース

藤並の森

vol.
105
2024.6



高知の秦神社と三上編集長（90年代後半）

到着したのは深夜だった。あがれだつた坂本龍馬を訪ねた桂浜。潮騒響く波打ち際に立つと、目の前に広がる大海原は漆黒の闇。水平線のはるか向こうには、かつて見知らぬ国があつたとか。あるとき巨大な地震によつて陸地が沈み、一夜にして滅んだという。まるで失われたムー大陸のような話だ。

しかし、伝説には必ず理由がある。土佐の西、足摺岬の沖合には海底遺跡がある。7世紀に起つた白鳳地震により、黒田郡なる地域が沈没したという記録が『日本書紀』にあり、集落と思

われる地形は、その証拠だとも。南海地震の可能性が指摘される高知において、同じことが、はるか古代においてあつたとして不思議ではない。

桂浜に坂本龍馬像があるように、足摺岬にはジョン万次郎の像がある。彼もまた、異国を夢見た男である。遭難して救助された後、帰国せずにアメリカに渡つた。日本の開国に果たした役割は、けつして小さくない。

東雲たなびく海を見つめるジョン万像の前に立つと、いやおうなく目に入つてくるのは、その左手に握られた三角定規とコンパスである。そう、アレである。秘密結社フリーメーソンのシンボルだ。彼もまた、そのメンバーだったのか。一説には坂本龍馬も関係者だったとも。

まだまだ、土佐には隠された秘密がありそうだ。日本一怪しい雑誌、月刊「ムー」だからこそ見えてくる真実もあるに違いない。今年、創刊45周年を迎えるにあたり、高知県立文学館でムー

リレー随筆 土佐の謎解く ムーの目 三上丈晴

展が開かれる。これも運命か。日本の夜明けは近いぜよ。

三上丈晴プロフィール

三上丈晴(みかみ たけはる)

1968年生まれ、青森県弘前市出身。筑波大学自然学類卒業。1991年、学習研究社(学研)入社。『歴史群像』編集部に配属されたのち、入社半年目から「ムー」編集部。2005年に5代目編集長就任。UFOはじめ超常現象についてのご意見番としてメディア出演多数。著書に『オカルト編集王 月刊ムー編集長のあやしい仕事術』(Gakken)。

趣味は翡翠採集と家庭菜園。



好評開催中

あんびるやすこ 作品展 レポート

会期 令和6年4月6日(土)~6月16日(日)



コットンがお出迎えしてくれる展示室入口

高知県立文学館に春を運んできた「あんびるやすこ作品展」、おかげさまで好評開催中です。展覧会では、約200点の原画を展示、印刷された本だけではなく、伝わりにくい繊細でやかな原画の色合いをご覧いただけます。さらに物語の世界を表現したかのようなフォトコーナー、名言の数々もご紹介。特に原画は本当に素晴らしい、一例を挙げれば、「魔法の庭」のがたり」シリーズで描かれる一つの種類が特定できそうな花々、「ルルとララ」シリーズの本

物と見まごうお菓子の質感、「なんでも魔女商会」のシルクのデザイン画、「ムーンヒルズ魔法宝石店」シリーズに登場する宝石の美しさなど、見所が多くあり、実際に見た方はその美しさに大変驚かれます。また、こまごまと書き込まれたイラストの数々を見ると、小さい子が一つの本を読み通すことができるよう、あんびるさんがいかに心を込めて絵を描き、お話を作っているのかということを強く感じさせます。閲覧コーナーではたくさんあんびるさんの本が置かれていますので、



色鮮やかでみずみずしい原画の展示



高知オリジナル展示の「名言コーナー」

読んでいない人も気軽に手に取つて読むことができます。

訪れるお客さまは、あんびるさんの作品をまさに読んでいる子どもたち、小さい頃読んでいたという若い方から、初めて作品と出会つたけれど本当に素敵ね、と目を細めるご年配の方まで、幅広い世代の方々です。

また、イベントの数々も喜ばれています。写真撮影「おさいほう魔女シルクになつて撮影しよう！」は、二階の企画展示室内のシルクの仕事場を再現したコ

ナーで撮影するのですが、シルクの衣装を着た子どもたちが、皆とてもいい笑顔で写真に写つており、通りがかった人まで笑顔になつっていました。

あんびるやすこ作品展は、6月16日(日)まで。四国初の企画展となつておりますので、ぜひ、この機会にお楽しみください。

(学芸課／川島禎子)



©月刊ムー

企画展

創刊45周年記念 ムー展 ~謎と不思議に挑む夏~

会期 令和6年7月6日(土)～9月16日(月祝)

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)



魅力 雑誌「ムー」の

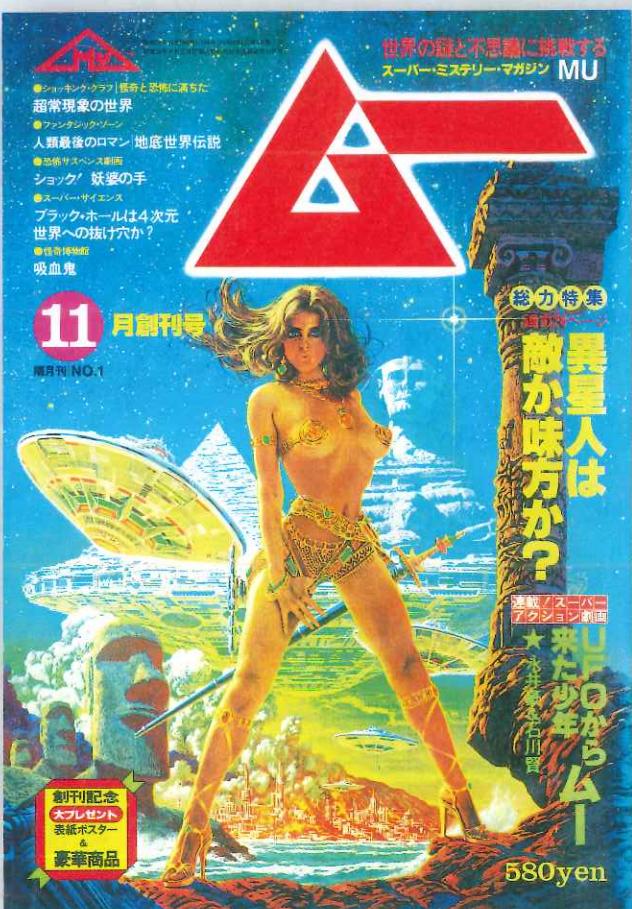
高知県立文学館ではあらゆる世代に文学の魅力をお届けしたいと願い、毎年、夏休み期間に親子で楽しく観覧できる企画展を開催しています。今年は世界の謎と不思議に挑戦する雑誌「ムー」について、その魅力を大解剖します!

1979年10月に創刊され、今年45周年を迎えるスーパー・ミステリーマガジン「ムー」

(ワン・パブリッシング刊)。創刊以来、UFO・未確認生物・古代文明・心霊現象など、世界中のあらゆる謎と不思議に挑戦し続けてきました。

「ムー」が登場した70年代は、つのだじろう著『恐怖新聞』や『うしろの百太郎』、五島勉著『ノストラダムスの大予言』のほか、口裂け女の出現、ユリ・ゲラーのスプーン曲げなど、日本中にオカルトブームが巻き起こった年代でもあります。このブームは90年代にも隆盛を極めるので、地球滅亡、学校の七不思議、心霊写真、はては前世記

憶の有無で友達と盛り上がりがつた思い出がある方も多いのではないでしようか。ブーム終焉と共に「ムー」の類似雑誌は次々と廃刊しますが、「ムー」だけは単なるオカルト雑誌の枠に留まらず、魅力的な図版展開と、読者の想像力・知的好奇心を刺激する説得力ある文章で世界文化の多様性を紹介し、現在まで



編集部のご厚意により当館オリジナルで開催する「ムー展」。会期中は三上編集長やwebムー望月編集長による不思議トークや、アマビエの色付けといった関連イベントのほか、県立美術館ホールの映画上映、県立歴史民俗資料館との連携展示など様々な展開を予定しています。この夏は、想像力の翼を大いに広げて、ムー的世界を楽しんでいただければ幸いで

本展では雑誌「ムー」自体にスポットをあて、これまでの軌跡を紹介するとともに、ピラミッドパワーやESPカードなどを用いて、これまでの軌跡を紹介します。

ドなど、一世を風靡した現象を実際に体験していただくコーナーも設け、謎と不思議にせまっていきます。

不思議を愛する高知の文学者

シバテン・エンコウ・ケチ火などに代表されるように、自然豊かな高知には妖怪に関する伝承も数多く残っており、田中貢太郎や桂井和雄といった高知の文学者はそれらを採話して後世に伝えてきました。展示では、異界を愛した作家たちの紹介も含め、身近な高知の謎と不思議も紹介します。

時代小説と歴史小説展 江戸時代を生きる、今を生きる

報告



展示の様子

高知出身・ゆかりの作家の時代小説・歴史小説をご紹介する「時代小説と歴史小説展－江戸時代を生きる、今を生きる」が3月24日(日)に無事閉幕しました。

「時代を読む」というテーマのもと、歴史の流れにこだわって作られた「時代小説」と「歴史小説」を、江戸時代を舞台にして描かれた多くの作品が圧倒的に多く、江戸時代前夜となる戦国時代では土佐一條家の最後の当主・一條兼定を描いた田岡典夫の『かげろうの館』や長宗我部元親の晩年を描いた宮地佐一郎の『闘鶏絵図』、司馬遼太郎の『功名が辻』『関ヶ原』などがあります。幕末では大岡昇平の『天誅組』、安岡章太郎の『流離譚』、田宮虎彦の『落城』などをご紹介しました。幕末の土佐を描いた作品には必ずと言ってよいほど土佐勤皇党の盟主・武市半平太が登場しますが、意外なことに半平太自身を主人公にした作品には出会えなかつたことも大きな発見でした。

また、時代小説では、江戸の町人文化が栄えた文化・文政年間

品をご紹介しました。

歴史小説は緊張が一気に高まつた時代を舞台にして描かれる作品が圧倒的に多く、江戸時代前夜となる戦国時代では土佐一條家の最後の当主・一條兼定を

描いた田岡典夫の『かげろうの館』や長宗我部元親の晩年を描いた宮地佐一郎の『闘鶏絵図』、司馬遼太郎の『功名が辻』『関ヶ原』などがあります。幕末では大岡昇平の『天誅組』、安岡章太郎の『流離譚』、田宮虎彦の『落城』などをご紹介しました。幕末の土佐を描いた作品には必ずと言ってよいほど土佐勤皇党の盟主・武市半平太が登場しますが、意外なことに半平太自身を主人公にした作品には出会えなかつたことも大きな発見でした。

（1804～1830）を中心にその前後の時代を描いた作品が圧倒的に多いことが、展示を通してみえてきました。たとえば、畠中恵作品の「しゃばけ」シリーズや「まんまとこと」シリーズは「一番江戸らしい時代」としてこの文化政時代を舞台にしています。

また、山本一力作品には、すこし手前の寛政元（1789）年を舞台にした作品が数多くあります。この年、松平定信が寛政の改革にわたります。本展では江戸時代のいつを描いた作品なのかにこだわって展示することで、作家が描き出したそれぞれの「江戸」という時代をより深く掘り下げることができたのではないかと思っています。



時代・歴史小説文学散步の様子

最後になりましたが、館報のリレー随筆をご執筆いただいた辻堂魁先生、トークイベントを快く引き受けてくださった山本一力先生、素晴らしい朗読を交えながら講演くださった松平定知様をはじめ、展覧会にご協力を賜りましたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

（学芸課／岡本美和）

革の一環として旗本・御家人の借金を帳消しにする“棄捐令”を発布。これにより江戸の町は不景気に陥りました。山本作品の人気シリーズ「損料屋喜八郎始末控え」はこの棄捐令を端緒として物語がはじまります。

江戸時代と一口にいってもその期間は265年間という長期間にわたります。本展では江戸時代のいつを描いた作品なのかにこだわって展示することで、作家が描き出したそれぞれの「江戸」という時代をより深く掘り下げることができたのではないかと思っています。

土佐文学さんぽ

酒と魚を愛した作家 土佐文雄(本名 藤本幹吉) たなし 谷

作家には二つのタイプがある。早くから土佐を出て、中央で創作した人と、かつた人である。土佐文雄は後者の代表的人物と言えよう。本名は藤本幹吉。昭和4年10月、左五親、徳恵の次男。高知市介良に生まれた。龍谷大学文学部を卒業。詩作を続けていたが、昭和29年に帰郷。大崎一郎らの「鉄と砂」に参加。丸島内高、須崎高、高知工業高と国語の教師を務めた。高校教組執行委員となり、33年の勤評闘争で逮捕。山原健二郎、島内一夫、石川愛子などと懲戒免職となつた。世に「七人の侍」と称された。

時の高知新聞社長・福田義郎は「まだ歳も若いから」と氣の毒がつて「高新区の骨」(横村浩の生涯)「土佐一条家の秘宝」「純信お馬」など多数の著作をなした。

中でも「純信お馬」は中央のオペラ劇

團が「新作オペラ」を創り、東京、高知他各地で上演したが、当時は原作者として得意の絶頂期。筆者も東京の渋谷にあったホールで土佐と同席して、このオペラを見た。オペラそのものの出来も良く、満足したことを覚えている。

子供の頃から釣りが好きで、下田川流域でそれに励んだというが、「土佐酒」を愛することこの上もなく、他を受けつけない一徹さ。また魚の鮮度を見分ける目も備わり、高知市大橋通りの魚屋で新鮮な魚を買い、自宅では、自分で調理をして楽しむ人であった。晩年もう少し公務員を続けたら、年金がはいると言つて「高知県立図書館」の司書の仕事もしたが、彼の土佐を離れない理由は「酒と魚」であつたと私は見ている。平成9年9月6日没。吉本健児経営の「成吉思汗」の止まり木で、酒杯を上げて、文学に至純な土佐の姿は今だに忘れることができない。

(郷土史家)

撮影:福本千秋



土佐文雄(1914-1996)

資料受贈報告

寄贈資料から――

「臺灣文學史料集刊」第11輯

徐郁繁・廖振富・蔡明諺・蕭亦翔
(臺灣文學史料集刊75)

黃偉誌主編 國立臺灣文學館刊
2023年12月 A5判 133頁

蕭亦翔氏寄贈



画像提供:國立臺灣文學館

(学芸課／小松路代・山崎真理)
（令和6年2月～4月）敬称略
田島征彦・花見じやそうべえ たじまゆきひこ作 童心社刊
柴田ケイコ・うちのビーマン 文川之上英子・健 絵 柴田ケイコ アリス館刊
吹井乃菜「あおいのヒミツ！」幻のレジビ復活させちやいます！ 作 吹井乃菜 絵・くろでこ KADOKAWA刊 他
祥伝社・うつ蟬風の市兵衛式 池堂魁著
祥伝社刊
湯浅篤志・大正時代の不思議小説 パンフレット 02 奇怪な銃弾 佐川春風著 湯浅篤志編 ヒラヤマ探偵文庫刊
宇都宮泰然・歌集 玉鶴 吉井勇著 交蘭社刊 他

蕭さんは、外地・台湾で刊行されながらその掲載詩のほとんどが日本内地の詩人にによるものである点を「茉莉」最大の特色と述べ、本田がどのようにしてそれらの詩人を知り、原稿を入手し得たのか探究。研究対象の一つとして詩誌「蠶」同人を取り上げ、交流の端緒を探るとともに、主宰者を除く同人全員の詩が「茉莉」に掲載されていること、

中でも高知県の詩人・岡本弥太「1899～1942（明治32～昭和17）」の詩が最も多いことを指摘しています。

附録として、本田晴光年表、「茉莉」全20号総目次（1932～1943年）、台湾及び日本の図書館・文学館等における「茉莉」と受贈刊行物を収録。本田と弥太の間で詩誌や詩集のやりとりがあつたことが確認できます。

丹念な資料探索がうかがわれる論考ですが、本研究では当館がインターネット上で公開している収蔵資料データベースも活用され、「茉莉」第7号をご提供しました。本号は台湾国内で唯一発見できなかつたとのことで、資料を長く保存し、その情報を探るための参考となる機会となりました。

（学芸課／小松路代・山崎真理）

受贈報告

（令和6年2月～4月）敬称略

臺灣文學史料集刊 第十一輯

2023

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

◆企画コーナー入れ替えのご案内

寅彦の後輩の溝淵は、晩年の寅彦が少年時代にさまざまな野草を口にしていたという話を生き生きと語ったという追憶を書いており、いかに高知時代が寅彦にとって大切な時間であったかを感じさせます。

寅彦七歳の時に父利正にあてた手紙、中学校時代の臨画など、久しぶりに展示する貴重な資料もありますので、当館にお越しの際には、ぜひ寺田寅彦記念室にもお立ち寄りください。

寺田寅彦記念室の入り口のすぐ前に位置する「ミニ企画コーナー」を入れ替えました。

令和6年度は「学生時代の寅彦」と題し、高知市江ノ口小学校から高知県立尋常中学校（現・追手前高校）の間の寅彦に関する資料や作品、本人や身近な人々の回想をご紹介しています。



寺田寅彦記念室ミニ企画コーナー



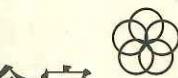
井手上恵キャスター

朗読は、小・中学校国語科の授業において、表現のための意義ある教育活動として取り組まれています。当館でも高知城下の緑豊かな環境のもと、朗読を通して、文学に親しむ子どもたちを育てたいと願い、毎年児童生徒文学作品朗読コンクールを開催しており、今年で27回目を迎えました。

文学作品を朗読することを楽しみ、より深く作品世界を理解することは、子どもたちに大きな喜びをもたらします。その喜びが、さらに文学に親しみつきかけとなることを願い、多くの子どもたちに参加していただきたいと考えています。

なお、県審査（11月）の特別審査委員には、RKC高知放送キャスターの井手上恵さんをお迎えします。

寺田寅彦記念室 ミニ企画コーナー 入れ替えのご案内



井手上キャスターによる記念講演会も開催予定ですので、こちらもぜひご注目ください。

（学芸課長／織田敦子）



① 地区審査

東部 8月12日(月)午前10時00分
高知県立文学館 1階 ホール

田野町ふれあいセンター

多目的会議室

高知 8月18日(日)午後1時00分
高知県立文学館 1階 ホール

高知県立文学館 1階 ホール

※高知会場は多数の参加が見込まれるため2日間を予定

西部 8月27日(火)午前10時30分
大方あかつき館 レクチャーホール

※高知会場は多数の参加が見込まれるため2日間を予定

② 県審査

11月10日(日)午後1時00分

高知県立文学館 1階 ホール

※各地区審査より選出された児童

生徒が県審査に出席します。

※特別審査員として、井手上恵さん（RKC高知放送キャスター）をお招きします。

③ 申込み期間及び応募締切り

令和6(2024)年6月3日(月)
から7月5日(金)まで

※当日消印有効

※詳細は当館ホームページの募集要項をご覧ください。

ショップより from the store

藤並の森の木々の緑色

がきれいですが、梅

雨の時期となり色

とりどりの紫陽花

が咲く季節となり

ました。

開催中の企画展

「あんびるやすこと作品展」

では、先生の作品を読んだ事のある小学生

や中・高生を中心幅広い世代のお客様に

ご来館頂いております。

ショップでは、「なんでも魔女商会」

「ルルとララ」「魔法の庭ものがたり」「ムーン

ヒルズ魔法宝石店」シリーズなどの書籍を

販売しております。

その他、「なんでも魔女商会」シリーズの

猫のコットンのぬいぐるみやお子様から

大人まで人気のぬりえ、用途に合わせて使

える便利なマルシェ

バッグやポストカードなどの可愛らしい

グッズを取り揃えて

おります。企画展開催中の販売となりま

すので、当館にお越しの際は是非ショッ

プをご覧下さい。



トピックス

常設展企画コーナーを入れ替えました

大河ドラマ「光る君へ」をご覧になつているでしょうか。常設展企画コーナーで「平安文学の世界—紫式部と女性たち—」を開催中です。

第一章を「『源氏物語』の世界」、第二章を「紫式部の文学」、第三章を「日記文学の世界」と題し、平安文学をいろいろな角度から知つていただける展示構成になつております。

『源氏物語』の注釈本である『湖月抄』や、近代以降の作家による現代語訳や原稿のパネルを展示しています。また、不明なことも多い紫式部とその人物像に注目し、紫式部の著作とされる『紫式部日記』と『紫式部集』も紹介していますので、ぜひご覧ください。展示資料数は約40点です。

関連して、「王朝文学を学ぶ」がテーマの今年度の文学マイスター講座も多くのお申し込みをいただいており、平安文学への関心の高さがうかがえます。文学館から小さな「古典ブーム」が起これば嬉しいです。

次回企画展創刊45周年記念ムー展では、また全く趣の違つた関連商品をご用意する予定ですので、ムー民の方々開催まで楽しみにお待ち下さい。

(総務事業課／山崎幸乃)

(松尾晋次)

(学芸課／笠岡花菜子)



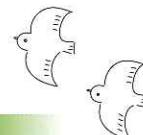
高知県立文学館カレンダー

あんびるやすこ 作品展

好評
開催中

- 会期 令和6年4月6日(土)～令和6年6月16日(日)
- 会館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 会場 高知県立文学館 2階 企画展示室
- 観覧料 500円(常設展含む)
長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料

展覧会の紹介をしています！詳しくは2ページ目をご覧ください。



©Yasuko Ambiru

次回
開催

創刊45周年記念 ムー展 ～謎と不思議に挑む夏～

- 会期 令和6年7月6日(土)～令和6年9月16日(月祝)
- 会場 企画展示室
- 観覧料 500円(常設展含む)
長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料

展覧会の紹介をしています！詳しくは表紙・3ページ目をご覧ください。

多彩な関連イベントも開催！

七夕の日にムーを語ろう！ webムー・望月編集長トーク

高知県立文学館でのムー展を記念し、「ムー」編集部から望月哲史氏が来高！雑誌「ムー」にまつわるアレコレや取材秘話などを語っていただきます。

- 日時 令和6年7月7日(日) 午後2時～午後4時
- 場所 高知県立文学館1Fホール
- 定員 100名
- 参加 要当日観覧券
- 申込 電話または文学館受付にて事前申し込み



©月刊ムー

歴史民俗資料館とのクロスイベント

三上編集長トーク+斎藤英喜先生飛び入り対談！「ムー」第5代目編集長・三上丈晴氏が高知県立文学館にやってくる！陰陽道・いざなぎ流・呪術研究者である斎藤英喜先生(佛教大学教授)も交え、世界の不思議をテーマに熱いトークを展開します！

- 日時 令和6年8月4日(日) 午後2時～午後4時
- 場所 高知県立高知追手前高等学校芸術ホール
- 定員 500名 ※応募多数の場合は抽選となります。
- 参加 要当日観覧券+当選はがき
- 申込 参加ご希望の方は、往復はがきに ①住所 ②氏名
③年齢 ④電話番号 ⑤三上編集長もしくは斎藤先生
に聞いてみたいことを記入のうえ下記までご応募ください。
〒780-0850 高知市丸ノ内1-1-20
高知県立文学館 ムーイベント係
- 締切 令和6年7月8日(月)まで 当日消印有効

臨時休館のお知らせ > 6月24日(月)～6月26日(水)メンテナンスのため臨時休館致します。

高知県立文学館で開催する企画展・その他事業は職員全員で消毒・清掃を行い、安心・安全に利用いただけるよう感染予防・拡大防止対策を行っております。

利 案 内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休
※その他、メンテナンス等で臨時休館することがあります。
- 観覧料 常設展一般370円 企画展はそれぞれ異なります。
20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、
戦傷病者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者(1名)、
高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。
(窓口で手帳等のご提示をお願いする場合があります)
なし。ただし近隣に有料駐車場があります。
- 駐車場 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、
茶室「慶雲庵」
- 附帯設備 企画展示室、ホール、茶室
- 貸出施設 高知県文化財団

交 通 の 案 内



- JR高知駅から徒歩20分
(またはバス・路面電車を利用)
- バス・路面電車「高知城前」から徒歩5分
- 高知龍馬空港から空港連絡バス「北はりまや橋」
下車、徒歩20分

高 知 県 立
文 学 館

〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857

高知県立文学館 検索

